

第8回 南日本経済賞

あす贈賞式

第8回南日本経済賞(南日本新聞社主催)は、NPO法人鹿児島グルメ都市企画(鹿児島市、竹之内雄作理事長)とグローバル・オーシャン・ワークス(垂水市、増永勇治社長)に決まった。「かごつまふるさと屋台村」を運

営し、訪れる県外客に鹿児島の食文化を発信する地域振興への貢献と、開発した冷凍加工技術を使い地元垂水産ブリの輸出を伸ばした実績がそれぞれ評価された。贈賞式は25日、鹿児島市の南日本新聞会館である。

鹿児島を「食」で発信



竹之内雄作理事長

「かごつまふるさと屋台村」は、鹿児島市のJR鹿児島中央駅近くに2012年4月末オープンした。九州新幹線全線開業に併せて、新たな観光名所として注目を集め、見学者を含めた1年目の来村者数は目標を20万人上回る50万人を突破。にぎわいは周辺地域にも波及した。入居する全26店の売上高も6億5千万円に達した。

屋台村は、同市の南国殖産(永山在紀社長)がホテルニューカゴシマ跡地を購入して建設。入居者から賃料などを取り、委託されたNPO法人鹿児島グルメ都市企画(理事長・竹之内雄作白金酒造会長)が運営している。すし、しゃぶしゃぶ、そば、ラーメンなど提供する料理は店によってさまざま。8月には、唯一

鹿児島グルメ都市企画

(鹿児島市)

県内外の客集う屋台村



昭和レトロ調の雰囲気漂う「かごつまふるさと屋台村」
—鹿児島市中央町

の物販だった焼酎販売店を焼酎バーにリニューアルする。昭和を思わせる懐かしい雰囲気や、店主を囲んだカウンタース席だけの狭い店内、通路にはみ出した簡易イスと机、鹿児島弁の活気ある接客。竹之内理事長(66)は、屋台という独特の形態こそ「日本人の心を癒やす場」と話す。話題性のあるイベントも集客を支え、連休などは県民や観光客でこた返す。男

女問わず、幅広い世代の支持を集めている。屋台村にした目的は主に四つ。①県産品の情報発信拠点②中心市街地活性化③おもてなしの拠点④観光スポット⑤若手起業家の育成。竹之内理事長は「屋台村は、単にもうければいい施設ではない。各店とNPO法人が、目的に向かって今以上に意思統一しなければ」と気を引き締める。



観光客でにぎわう店内
—鹿児島市中央町

●NPO法人鹿児島グルメ都市企画 2012年1月、「かごつまふるさと屋台村」の運営団体として設立。屋台村は同年4月末に開業した。NPO法人には理事や社員ら18人が籍を置く。屋台村は居酒屋など26店舗が入居。アルバイトを含め100人超が働く。屋台村=鹿児島市中央町6の4。099(255)1588。